授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 メンタルヘルスマネジメント		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員･歯科衛生士として従事。	
授業の回数 32 回	時間数（単位数） 60 時間（1 単位）	配当学年・時期 1 年・後期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

・メンタルヘルスに関する基礎知識を学ぶ。

・メンタルヘルスマネジメント検定Ⅲ種の合格。

［授業全体の内容の概要］

・テキストを使用し、基礎知識を学ぶ。

・過去問題集を使用し、グループワークで過去問を解く。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・過去問正答率 80%以上

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1. 検定試験について メンタルヘルスケアの意義(1)	16・17. 第 4 章過去問題
2. メンタルヘルスケアの意義(2)	18. ストレスへの対処、軽減の方法(1)
3・4. 第 1 章過去問題	19. ストレスへの対処、軽減の方法(2)
5. ストレスおよびメンタルヘルスに関する 基礎知識(1)	20・21・22・23・24. 第 5 章過去問題
6. ストレスおよびメンタルヘルスに関する 基礎知識(2)	25. 社内外資源の活用(1)
7・8・9. 第 2 章過去問題	26. 社内外資源の活用(2)
10. セルフケアの重要性(1)	27・28. 第 6 章過去問題
11. セルフケアの重要性(2)	29. 予想模試 1 回
12・13. 第 3 章過去問題	30. 予想模試 2 回
14. ストレスへの気づき方(1)	31・32. 期末考査
15. ストレスへの気づき方(2)	

［使用テキスト・参考文献］	・中央経済社『メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト[第 5 版] [Ⅲ種 セルフケアコース]』 ・中央経済社『メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種セルフケアコース過去問題集〈2024 年度版〉』

［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員･歯科衛生士として従事。	
授業の回数 30 回	時間数（単位数） 60 時間（2 単位）	配当学年・時期 1 年・後期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

・ソーシャルワークについて理解する。

・ソーシャルワーカーの仕事や意義について知る。

・ソーシャルワークの展開の歴史について理解する。

・ソーシャルワークにおける倫理の必要性について理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・ソーシャルワークとはどのようなことか説明できる。

・社会福祉士の定義や義務・連携について、法律を挙げて説明できる。

・ソーシャルワークの発展と展開の歴史について、その過程と重要人物を挙げて説明できる。

・ソーシャルワーカーに倫理が必要な理由について説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1　ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士

2　社会福祉士及び介護福祉士法

3　精神保健福祉士法

4　社会福祉士および精神保健福祉士の専門性

5　社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー

6　ソーシャルワークの定義

7　ソーシャルワークの構成要素

8　ソーシャルワークの原理(1)

9　ソーシャルワークの原理(2)

10　ソーシャルワークの原理(3)

11　ソーシャルワークの理念(1)

12　ソーシャルワークの理念(2)

13　ソーシャルワークの理念(3)

14　ソーシャルワークの理念(4)

15　ソーシャルワークの形成過程(1)

16　ソーシャルワークの形成過程(2)

ソーシャルワークの形成過程(3)

17　ソーシャルワークの形成過程(4)

18　ソーシャルワークの倫理(1)

19　ソーシャルワークの倫理(2)

20　ソーシャルワークの倫理(3)

21　ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲(1)

22　ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲(2)

23　ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲(3)

24　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(1)

25　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(2)

26　総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(1)

27　総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(2)

28　総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(3)

29　総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容(4)

	30　振り返り 31　期末考査
［使用テキスト・参考文献］	中央法規出版『最新　社会福祉養成講座　11　ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 福祉住環境コーディネーター		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 30 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 １年・後期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・福祉住環境に関する基礎知識を学ぶ。
・福祉住環境コーディネーター3 級の合格。

［授業全体の内容の概要］
・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する
・過去問演習に関しては、グループになり実施する

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・過去問正答率 80％以上

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

１．検定試験について　少子高齢社会とユニバーサル社会への道	16. 安全で安心できる住生活
２．福祉住環境整備の重要性・必要性	17. 安心して暮らせるまちづくり
３．在宅生活の維持とケアサービス	18. 第 5 章のテスト
４．第 1 章テスト	19. 第 36 回（過去問）
５．健康と障害の基礎知識	20. 第 37 回
６．高齢者と障害者の特性	21. 第 38 回
７．機能の維持・回復を目指すリハビリテーション	22. 第 39 回
８．第 2 章テスト	23. 第 40 回
９．バリアフリーとユニバーサルデザインを考える	24. 第 41 回
10. 生活を支えるさまざまな用具	25. 第 42 回
11. 第 3 章テスト	26. 第 43 回（過去問の年度は変更可能性あり）
12. 住まいの整備のための基本技術	27. 予想模試１回
	28. 予想模試２回
	29. 予想模試３回
	30. まとめ・振り返り

13. 生活行為別に見る安全・安心快適な住まい 14. 第 4 章のテスト 15. ライフスタイルの多様化と住まい	期末考査
［使用テキスト・参考文献］	東京商工会議所著 『福祉住環境コーディネーター検定 3 級　公式テキスト』 中央経済社発行　2025 年 2 月発行　価格：3,000 円＋税 ISBN978-4-502-53431-7
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%）

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 地域福祉と包括支援体制		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	
15 回	30 時間（2 単位）	1 年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・地域福祉の基本的な概念や理念について理解する
・外国における地域福祉のあゆみ・日本における地域福祉のあゆみについて理解する
（地域福祉の歴史・地域福祉研究者による福祉理論）
・地域福祉の役割と実際、活動について理解する（地域福祉にはどのような専門機関・専門職団体が存在し、どのような活動を行っているか。どのような専門職が存在するか、地域福祉計画についての理解）

［授業全体の内容の概要］
・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する
・地域福祉の動向等に関しては必要な情報を検索し把握する。社会福祉関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う
・CSW として活動している豊中市社会福祉協議会・勝部麗子氏の動画を視聴する

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・地域福祉の基本的な概念や理念について説明することができる。
・諸外国や日本における地域福祉の歴史や理論について説明することができる。
・地域福祉に実際に存在する専門機関・専門職団体・専門職について機関等のそれぞれの役割や活動について説明することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1．地域福祉の定義、理念、海外における地域福祉の起源について 2．海外の地域福祉・イギリスにおける地域福祉の発展について 3．海外の地域福祉・アメリカにおける地域福祉の発展について 4．イギリスと日本におけるコミュニテイケアの発展について 5．イギリスと日本におけるコミュニテイケアの発展について	7．社会福祉協議会の成立・経過～日本の地域福祉諸政策について 8．地域福祉の主体と対象、活動内容について 9．地域福祉の推進における法制（社会福祉法） 10．地域福祉に係る組織、団体について① 11．地域福祉に係る組織、団体について② 12．地域福祉に係る専門職について 13．地域福祉における社会資源や福祉ニーズの把握方法について 14．地域福祉における福祉サービスの評価・向

６．前半：日本における地域福祉理論について 後半：ＣＳＷ勝部麗子氏の動画視聴	上の取り組み 15．福祉のまちづくりと福祉教育について 期末考査
［使用テキスト・参考文献］	・山本美香著　『地域福祉と包括支援体制』　株式会社弘文堂 2022 年 3 月発行　価格：2,500 円＋税 ISBN-10　433561215X
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%）

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 貧困に対する支援		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） ３０時間（２単位）	配当学年・時期 ２年・前期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］

1　公的扶助の理論の概要を把握する

2　国家試験に合格するための基礎学力を身に着ける

［授業全体の内容の概要］

担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、基礎的な内容を把握できるよう確認試験を解答させる

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

1　過去問が解けるようになる

2　確認試験で知識を確実に身に付ける

3　生活保護制度の現状についてのビデオを鑑賞する

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1．低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅰ

2．低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅱ

3．低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅲ

4．低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅳ

5．ビデオ視聴学習、感想を書いてもらう

6．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅰ

8．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅱ

9．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅲ

10．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅳ

11．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅴ

12．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅵ

13．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅶ

14．生活保護制度　生活保護法の概要Ⅷ

15．ふりかえり
期末考査

［使用テキスト・参考文献］	・社会福祉士養成講座編集委員会著 『貧困に対する支援』 株式会社　中央法規 2021 年 2 月発行　価格：2,750 円（税込み） ISBN　978-4-8058-8247-4

［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%）

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 高齢者福祉		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員・歯科衛生士として従事。	
授業の回数 32 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 ２年・通年	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
高齢者と家族等への支援について、総合的に理解する。

［授業全体の内容の概要］
高齢者と家族等への支援について学ぶ。グループワークや事例検討を通して理解を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・高齢者を取り巻く状況について説明できる
・高齢者福祉に関する制度やサービス、関係機関・関連職種との連携について説明できる
・高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割・支援の実際について説明・考察できる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1・2. 高齢者の定義と特性	33・34. 高齢者医療確保法
3・4. 少子高齢社会の到来	35・36. 高齢者虐待防止法
5・6. 高齢者の生活実態	37・38. バリアフリー法
7・8. 高齢者を取り巻く社会環境	39・40. 高齢者住まい法
9・10. 高齢者福祉の歴史①	41・42. 高年齢者雇用安定法
11・12. 高齢者福祉の歴史②	43・44. 育児・介護休業法
13・14. 高齢者福祉の理念	45・46. 関係機関の役割①
15・16. 介護保険制度の概要①	47・48. 関係機関の役割②
17・18. 介護保険制度の概要②	49・50. 関係機関の役割③
19・20. 地域支援事業	51・52. 関連する専門職種の役割
21・22. 介護保険サービス①居宅サービス	53・54. 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割①
23・24. 介護保険サービス②介護予防サービス	55・56. 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割②
25・26. 介護保険サービス③施設サービス	57・58. 高齢者と家族等に対する支援の実際①
27・28. 老人福祉法	59・60. 高齢者と家族等に対する支援の実際②
29・30. まとめ	61・62. まとめ
31・32. 期末考査	63・64. 期末考査

［使用テキスト・参考文献］	中央法規出版 『最新　社会福祉養成講座　2 高齢者福祉　第２版』
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉科）

<table>
<tr><td colspan="3">授業科目名
児童・家庭福祉</td><td colspan="4">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業担当者
名地　宙</td><td>実務経験</td><td colspan="4">・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。
・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業の回数
30 回</td><td colspan="2">時間数（単位数）
60 時間（２単位）</td><td colspan="2">配当学年・時期
２年・前・後期</td><td>（ 必修・ 選択 ）</td></tr>
<tr><td colspan="7">［授業の目的・ねらい］
・最近の子どもや家庭を取り巻く環境について理解する
・児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭福祉施策の全体像を理解する
・多岐に渡る児童に関する法律や制度を把握し理解する
・様々な問題に対応する児童相談所や市町村の対応について理解する
・社会的養護としての児童福祉施設・里親について理解する

［授業全体の内容の概要］
・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する
・少子化の動向や虐待の件数に関しては、国の資料等を検索し把握する。児童福祉関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う
・児童福祉施設、児童虐待、ＤＶ、里親制度等に関しては、補助資料としてＤＶＤを視聴し、理解を深める

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・子どもや家庭を取り巻く現状や課題（貧困・虐待・ＤＶ等）について説明できる
・我が国や諸外国における児童関連法規、児童福祉施策や権利保障について説明できる
・児童相談所の活動内容や役割等について説明できる
・児童福祉施設や里親制度について説明できる</td></tr>
<tr><td colspan="7">［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）</td></tr>
</table>

１．子ども家庭を取り巻く社会情勢と生活実態について ２．子ども家庭福祉とは ３．子どもと家庭の権利保障 ４．日本の子ども家庭福祉の歴史① ５．日本の子ども家庭福祉の歴史② ６．欧米の子ども家庭福祉の歴史 ７．子ども家庭福祉の法体系① ８．子ども家庭福祉の法体系② ９．子ども家庭福祉の法体系③ 10．子ども家庭福祉の法体系④ 11．改正『児童福祉法』について 12．子ども家庭福祉の実施体制① 13．子ども家庭福祉の実施体制② 14．児童福祉施設の体系について 15．母子保健・医療サービス 期末考査	17 子育て支援と子どもの健全育成 18．少子化対策の動向 19．子どもの健全育成施策・保育サービスについて 20．子ども・子育て新制度における子ども・子育て支援について 21．ひとり親家庭への福祉サービス 22．ドメスティックバイオレンスの現状 23．子どもの社会的養護 24．児童虐待の現状 25．児童虐待への対応 26．児童虐待・ＤＶに関する動画の視聴 27．障害のある子どもと家庭への福祉サービス 28．情緒・非行問題のある子どもと家庭への福祉サービス 29．非行問題のある子どもの現状と対応 30．スクールソーシャルワーカーについて 期末考査
［使用テキスト・参考文献］	・千葉喜久也著　『児童・家庭福祉論』　株式会社みらい 2018 年 3 月 1 日発行　価格：2,200 円＋税 ISBN978-4-86015-358-8
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%）

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 福祉サービスの組織と経営		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 名地　宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 30 回	時間数（単位数） 60 時間（２単位）	配当学年・時期 ２年・前期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・福祉サービスにかかわる組織や団体の概要と役割を把握する
・集団の力学やリーダーシップを中心とした福祉サービスの組織と経営の基礎理論を理解する
・福祉サービスの運営管理の方法をサービス管理・人事労務管理と育成・財務管理・情報管理から総合的に理解する。

［授業全体の内容の概要］
・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する
・社会福祉法関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う
・自分の居住地の社会福祉法人・ＮＰＯ法人・医療法人にはどのようなものがあるか、社会資源調査を行う

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・社会福祉法人やＮＰＯ法人等経営の現状と課題を説明できる（法律含む）
・集団やリーダーシップのあり方を述べることができる
・リスクマネジメントや人事育成・労務管理と経営との関連性を説明できる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

１．福祉サービスと法人について	16. 組織について
２．法人の理解	17. 管理運営の基礎理論、個人・集団・組織
３．コンプライアンス・ガバナンス・社会福祉法人について①	18. 集団の力学に関する基礎理論
４．社会福祉法人について②	19. 集団の負の側面、リーダーシップに関する基礎理論①
５．社会福祉法人について③	20. リーダーシップに関する基礎理論②
６．社会福祉法人について④	21. サービスマネジメントについて
７．社会福祉法人について⑤	22. ４つのＰと３つのＰ
８．特定非営利活動法人について①	23. 福祉サービス第三者評価事業について
９．特定非営利活動法人について②	24. 苦情対応とリスクマネジメント①
10. その他の組織について①	25. 苦情対応とリスクマネジメント②
11. その他の組織について②	26. 人事労務管理について①

12．その他の組織について③ 13．福祉サービスの組織と経営基礎理論① 14．福祉サービスの組織と経営基礎理論② 15．経営戦略論の系譜について	27．人事労務管理について② 28．人事労務管理について③ 29．労働法規について 30．財務管理・会計管理について 期末考査

［使用テキスト・参考文献］	『福祉サービスの組織と経営』　中央法規 2021 年 2 月発行　価格 2,750 円 ISBN978-4-8058-8244-3
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) ・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10%） ・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5%）

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 ソーシャルワーク演習Ⅰ		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員･歯科衛生士として従事。	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（１単位）	配当学年・時期 １年・後期	（ 必修・　選択　）

［授業の目的・ねらい］

・これまで学んできた理論を基に専門職として実際の援助場面で活用していくためのスキルを主体的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

・他者と関わりながら、自己覚知から自己理解・他者理解へ到達し、相談援助者にふさわしい資質を向上させる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・演習における自己の観察から自己覚知しそれを文章化することができる。

・言語的・非言語的コミュニケーションそれぞれの特性を知り他者の理解を深める。

・事例をもとにストレングスやエンパワメントの視点で人と関わることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数　（15 回までの場合はセル結合）

1 自己理解と他者理解	9　プランニング
2　共感の意味と深さ	10　ケースカンファレンス
3　価値観の違い	11　効果と評価測定
4　言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション	12　コミュニティワークのプロセス１
5　ソーシャルワークの価値	13　コミュニティワークのプロセス２
6　ソーシャルワークの倫理	14　傾聴
7　記録技法	15　受容の意味
8　アセスメント	16　期末考査

［使用テキスト・参考文献］	・中央法規出版『最新　社会福祉養成講座　13　ソーシャルワーク演習　［共通科目］』
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉専攻科）

授業科目名 ソーシャルワーク演習Ⅱ		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）	
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター20年	
授業の回数 16回	時間数（単位数） 30時間（１単位）	配当学年・時期 ２年・前期	（　必修・　選択　）

［授業の目的・ねらい］

・これまで学んできた理論を基に専門職として実際の援助場面で活用していくためのスキルを主体的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

・事例を理解し、グループで互いの考え方を知り意見交換を経て相談援助者にふさわしい資質を向上させる。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

・事例研究から自分の考えを述べることができ、他者の考え方を理解できる。

・ソーシャルワーク実践における主要な技術を習得する。

・ソーシャルワークの過程における相談援助者の果たすべき役割を説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1. グループの理解①	10. 事例考察③　発表
2. グループの理解②	11. 個人・家族へのソーシャルワーク インテーク
3. グループの理解③	12.　〃　アセスメント
4. 自分を見つめる（自分への手紙）	13　〃　プランニング
5. ソーシャルワーカーとソーシャルワーク①	14.　〃インターベンション・モニタリング
6.　〃　②	15.　〃　ターミネーション
7.　〃　③	16. 期末考査
8. 事例考察①　発表	
9. 事例考察②　発表	

［使用テキスト・参考文献］	学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 ミネルヴァ書房　事例と演習で学ぶソーシャルワーク中央法規
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。（５%） ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（10%）。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター20年	
授業の回数 ３２回	時間数（単位数） 60時間（２単位）	配当学年・時期 ２年・後期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・地域に関わるソーシャルワークを理解する
・社会環境への働きかけを理解する
・ソーシャルワークの基礎的技術を理解する
・ソーシャルワークとグループの関係を理解する

［授業全体の内容の概要］
・相談援助に必要な基礎的技術を養う
・相談援助に必要な利用者との関わり方を学ぶ

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・地域に関わるソーシャルワークを説明できる
・社会環境への働きかけを説明できる
・面接の技術を理解し説明できる
・ソーシャルワークにおける記録について説明できる
・ソーシャルワークの過程を説明できる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

１．ソーシャルワーク専門職とは何か	17. ケアマネジメント
２. 就労のする分野の現状と課題	18. グループとソーシャルワーク
３. 諸外国におけるソーシャルワークの動向	19. グループの理解
４. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	20. コミュニティとソーシャルワーク
５. 総合的かつ包括的な支援の意義と内容	21. 地域の理解
６. 多職種連携とチームワークの意義と内容	22. スーパービジョンとソーシャルワーク
７. 人と環境の相互作用とソーシャルワークの射程	23. スーパービジョンを理解する
８. エコマップ	24. ソーシャルワークの記録①
９ソーシャルワークの過程１導入期①	25. ソーシャルワークの記録②
10. ソーシャルワークの過程１導入期②	26. 記録票への記入
11. ソーシャルワークの過程２アセスメント①	27. 面接とは
12. ソーシャルワークの過程２アセスメント②	28. 面接の技術①
13. ソーシャルワークの過程３支援計画の作成と実施１	29. 面接の技術②
14. ソーシャルワークの過程４モニタリング	30. 総合的・包括的なソーシャルワークをめぐる問題
15. ソーシャルワークの過程４アフターケア	31. まとめ
16. 期末考査	32. 期末考査

［使用テキスト・参考文献］	ソーシャルワークの基盤と専門職　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習　　ミネルヴァ書房

［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター20年	
授業の回数 ３２回	時間数（単位数） 30時間（２単位）	配当学年・時期 ２年・前期	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・地域に関わるソーシャルワークを理解する
・社会環境への働きかけを理解する
・ソーシャルワークの基礎的技術を理解する
・ソーシャルワークとグループの関係を理解する

［授業全体の内容の概要］
・相談援助に必要な基礎的技術を養う
・相談援助に必要な利用者との関わり方を学ぶ

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・地域に関わるソーシャルワークを説明できる
・社会環境への働きかけを説明できる
・ソーシャルワークの過程を説明できる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

1．ソーシャルワークの基盤と専門職課題解説（東北福祉大学）
2．ソーシャルワーク演習のレポート説明（東北福祉大学）
3．ソーシャルワークのアプローチ
4．ソーシャルワークのアプローチ
5．アプローチ発表
6．ソーシャルワークの機能と枠組み
7．ソーシャルワークの固有の視点
8．自己覚知とは何か
9．　〃
10．倫理とは何か
11．倫理的ジレンマとは何か
12．レポート内容の発表
13．グループの理解
14．社会福祉士の役割とは何か
15．　〃

［使用テキスト・参考文献］	ソーシャルワークの基盤と専門職　ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習　　ミネルヴァ書房
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) ・提出課題において、到達目標の６割以上に達している点を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 医学概論		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員･歯科衛生士として従事。	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（１単位）	配当学年・時期 ２年・前期	（ 必修・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
社会福祉の活動対象となる個人、集団について、医学的な面から理解する。

［授業全体の内容の概要］
授業資料を用いて解説し、グループワークや事例検討を通して理解を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・ライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解し説明できる。
・身体構造と心身機能について理解し説明できる。
・健康の概念および疾病の成り立ち・回復過程について理解し説明できる。
・疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションについて理解し説明できる。
・公衆衛生について理解し説明できる

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

1 ライフステージにおける心身の変化と健康課題

2 健康及び疾病の捉え方

3 身体構造と心身機能(1)

4 身体構造と心身機能(2)

5 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程

リハビリテーションの概要と範囲

6 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①

7 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②

8 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③

9 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④

10 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤

11 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑥

12 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑦

13 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑧

14 公衆衛生

15 振り返り

16 期末考査

［使用テキスト・参考文献］	中央法規出版 『最新　社会福祉養成講座　1　医学概論』
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 保健医療と福祉		授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	
授業担当者 高橋　洋美	実務経験	高齢者施設にて生活相談員･歯科衛生士として従事。	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（１単位）	配当学年・時期 ２年・後期	（ 必修 ・ 選択 ）

［授業の目的・ねらい］
・医療分野におけるソーシャルワーク実践について理解する。
・保健医療の動向・政策・制度およびサービスについて理解する。
・医療分野における専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

［授業全体の内容の概要］
授業資料を用いて解説し、グループワークや事例検討を通して理解を深める。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・保健医療の課題をもつ人について理解し、説明できる。
・医療倫理について理解し、説明できる。
・保健医療の動向について理解し、説明できる。
・保健医療領域に必要な政策・制度・サービスについて理解し、説明できる。
・保健医療領域における専門職の役割と連携について理解し、説明できる。
・保健医療領域における支援の実際について理解し、説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

1・2. 医療倫理 3・4. 保健医療の動向 5・6. 保健医療領域に必要な政策・制度・サービスに関する知識① 7・8. 保健医療領域に必要な政策・制度・サービスに関する知識② 9・10. 保健医療領域に必要な政策・制度・サービスに関する知識③ 11・12. 保健医療領域に必要な政策・制度・サービスに関する知識④ 13・14. 保健医療領域における専門職の役割と連携① 15・16. 保健医療領域における専門職の役割と連携② 17・18. 保健医療領域における専門職の役割と連携③ 19・20. 保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割 21・22. 入退院・在宅医療における支援 23・24. 終末期ケアにおける支援 25・26. 認知症患者と家族への支援 27・28. 救急・災害現場における支援 29・30. 振り返り	31・32　期末考査

［使用テキスト・参考文献］	中央法規出版 『最新 社会福祉養成講座 5 保健医療と福祉　第 2 版』
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(85%) 期末考査により算出する。 ２．平常点(15%) 授業での発言や参加態度を評価する。

授　業　概　要

（社会福祉科）

<table>
<tr><td colspan="3">授業科目名
刑事司法と福祉</td><td colspan="3">授業の種類（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）</td></tr>
<tr><td colspan="3">授業担当者
名地　宙</td><td>実務経験</td><td colspan="2">・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談及びサービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。
・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、
就労定着支援業務を担当。</td></tr>
<tr><td>授業の回数
１５　回</td><td>時間数（単位数）
30 時間（１単位）</td><td>配当学年・時期
２年・後期</td><td colspan="3">（ 必修・ 選択 ）</td></tr>
</table>

［授業の目的・ねらい］

刑事司法と福祉の基礎を踏まえたうえで、更生保護制度の意義と目的などに関する基礎的事項を分野横断的、体系的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

刑事司法と福祉の根幹である更生保護制度に関する基本知識を理解し、適切に説明、運用ができるようになる。

また映像資料を１５回に分けて、鑑賞し、更生保護の現場を知り、具体例を知り、将来の援助の在り方をつかむ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］

１．更生保護制度に関する基本知識を理解し適切に説明できる。

２．更生保護制度を具体的に理解し、その特徴を考察できる。

３．実際に更生保護制度を運用できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

第１回　刑事司法の中の更生保護の歴史
　　更生保護法のできるまで

第２回　更生保護とは？更生保護の対象　保護観察の２つの機能

第３回　補導援護の方法

第４回　非行・犯罪臨床　少年非行

第５回　犯罪臨床(刑事司法における犯罪者＜成人＞に対する手続き)

第６回　仮釈放・仮出場

第７回　仮釈放・少年院からの仮退院・婦人補導院からの仮退院

第８回　仮釈放等の手続き・収容中の者に対する生活環境の調整・法定期間経過の通告

第９回　３６条調査・２５条調査等・仮釈放等の許可基準

第１０回　保護観察…保護観察の目的・保護観察の方法・保護観察対象者５種類

第１１回　保護観察の方法―指導監督と補導援護

保護観察の方法―遵守事項、保護観察対象者の種類とその特徴、その終了時の状況…保護観察処分少年（1 号観察）、少年院仮退院者（2 号観察）、仮釈放者（3 号観察）、保護観察付執行猶予者（4 号観察）、婦人補導院仮退院者（5 号観察）

第１２回　更生保護制度の担い手　　保護観察官・協力雇用主

第１３回　更生保護制度の担い手　　保護司

第１４回　更生保護施設

第１５回　医療観察制度　後期試験

［使用テキスト・参考文献］

更生保護制度　渡辺　信英　著　　南窓社　　ISBN978-4-8165-0400-6

社会福祉士国家試験のためのﾚﾋﾞｭｰﾌﾞｯｸ　医学評論社　　ISBN978-4-89632-763-2

社会福祉士国試ナビ　　中央法規　　ISBN978-4-8058-5881-3

［単位認定の方法及び基準］

・教科出席率が 80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

１．考査点(85％)

・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。

２．平常点(15％)

・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する（10％）

・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する（5％）

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 レクリエーション支援の方法Ⅰ		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）	
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター20年	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（２単位）	配当学年・時期 １年・通年	（　必修・　選択　）

［授業の目的・ねらい］
・コミュニケーション能力の向上
・人や自然と関わることの楽しさを実感し、レクリエーション計画に活かす。
［授業全体の内容の概要］
室内や屋外で楽しむことにより人を楽しませ、和ませる方法を会得する。
［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・いろいろなレクリエーションの素材を知り、実践に応用することができる。
・楽しみながら学び、人を楽しませるためのレクリエーションを実施することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

１．自己紹介ゲーム	１．カレンダー製作（10月～3月）
２．俳句を作り短冊に書く	２．体を動かすレクリエーションⅡ
３．　カレンダー製作（4月～9月）	３．公園で自然を感じる
４．体を動かすレクリエーションⅠ	４．公園で探してきたもので作る
５．楽しいゲーム	５．レクリエーションを計画する
６．自然の中で楽しむ（越後丘陵公園）	６．レクリエーションを実施する
７．　〃	７．クリスマスのカードを作る
８．　〃	８．クリスマスリースを作る
９．自然の中で学ぶ（悠久山）	９．クリスマスパーティーを企画する
10．　〃	10．　〃
11．振り返り	11．クリスマスパーティー
12．新聞紙でタワーを作る	12．折り紙で楽しむ
13．レクリエーションを考える	13．お手玉を作る
14．先輩のレクリエーションを体験する	14．お手玉で遊ぶ
15．レクリエーションを披露する・振り返り	15．振り返り

［使用テキスト・参考文献］	ゲーム204
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(60%) 到達目標の修得状況を測るために、作品提出により算出する。 ２．平常点(20%) ・授業時間において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（40%）。

授　業　概　要

（社会福祉科）

授業科目名 レクリエーション支援の方法Ⅱ		授業の種類（　講義　・　演習　・　実習　）	
授業担当者 川本　公代	実務経験	訪問介護員４年　ディスクゴルフ指導員３年 レクリエーション・インストラクター20年	
授業の回数 30回	時間数（単位数） 60時間（２単位）	配当学年・時期 １年・通年	（　必修・　選択　）

［授業の目的・ねらい］
・コミュニケーション能力の向上
・人や自然と関わることの楽しさを実感し、レクリエーション計画に活かす。
［授業全体の内容の概要］
室内や屋外で楽しむことにより人を楽しませ、和ませる方法を会得する。
［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・いろいろなレクリエーションの素材を知り、実践に応用することができる。
・楽しみながら学び、人を楽しませるためのレクリエーションを実施することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］コマ数

１．自己紹介ゲーム	１．カレンダー製作（10月～3月）
２．俳句を作り短冊に書く	２．体を動かすレクリエーションⅡ
３．　カレンダー製作（4月～9月）	３．公園で自然を感じる
４．体を動かすレクリエーションⅠ	４．公園で探してきたもので作る
５．楽しいゲーム	５．レクリエーションを計画する
６．自然の中で楽しむ（越後丘陵公園）	６．レクリエーションを実施する
７．　〃	７．クリスマスのカードを作る
８．新聞紙でタワーを作る	８．クリスマスリースを作る
９．　レクリエーションを考える	９．クリスマスパーティーを企画する
10．レクリエーションを考える	10．　〃
11．レクリエーションを計画する	11．クリスマスパーティー
12．レクリエーションを実施する	12．折り紙で楽しむ
13．スポーツ大会実施	13．お手玉を作る
14．　〃	14．お手玉で遊ぶ
15．大会の振り返り	15．振り返り

［使用テキスト・参考文献］	ゲーム204
［単位認定の方法及び基準］	・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 １．考査点(60%) 到達目標の修得状況を測るために、作品提出により算出する。 ２．平常点(20%) ・授業時間において、到達目標の６割以上に達している点を評価する（40%）。